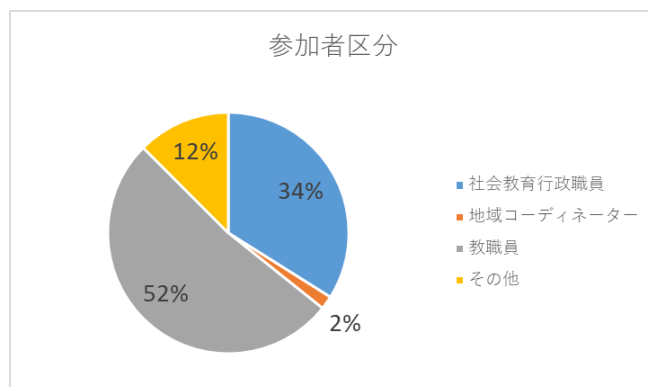


子どもたちのLGBTに寄り添うために～地域で育む「自分らしさ」～

事業の内容

- 1 日時 令和7年2月21日（金）15:00～16:15
- 2 場所 オンライン（zoom）
- 3 人数 56名



I プログラム

14:50 15:00 15:10

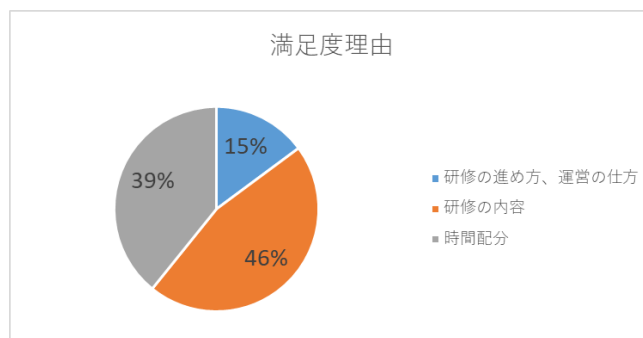
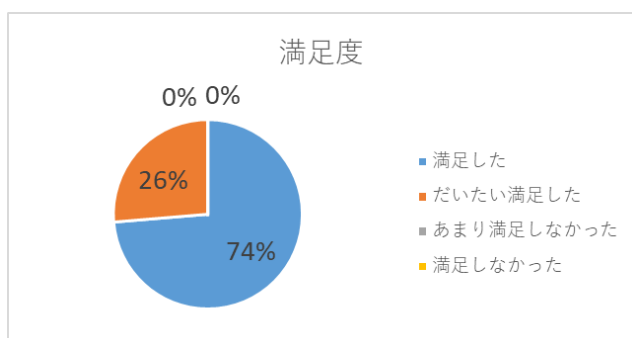
16:15 16:20

受付	開会	講義「子どもたちのLGBTに寄り添うために」 質疑応答	閉会
----	----	--------------------------------	----

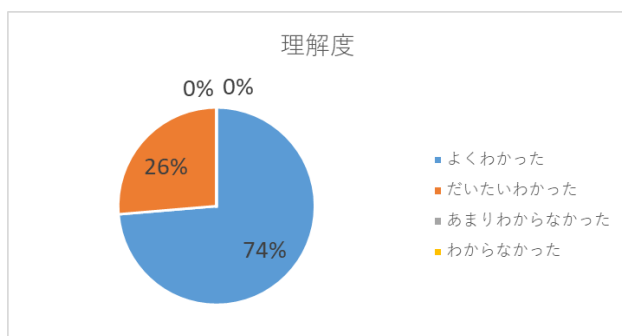
【講義】 「子どもたちのLGBTに寄り添うために」 【講師】 さっぽろレインボープライド実行委員会 実行委員長 柳谷 由美 氏	【内容】 LGBTについての基礎的な知識や子どもたちを取り巻く環境、性別違和感で悩む子どもや大人の現状について学んだ。講義をとおして、社会全体で考えなければならないこと、個人として当事者にどのような寄り添い方があるのか、具体的な対応例をもとに理解を深めた。
---	--

II アンケート結果

1 満足度



2 理解度



Ⅲ 参加者からの声

- ・子どものLGBTについて、左利き・AB型・佐藤さん鈴木さんと遭遇する確率で存在すると説明を受けたときに、当たり前にいることを前提に考え、行動していく必要性を感じました。
- ・多様性について具体的な説明があり、理解が深まりました。見えづらだけで身近な存在であること、LGBTやTやQを決めつけないこと、いじりはだめだときっぱり伝えることなど。カミングアウトしづらくても、周りに理解者が多くなる地域にしていきたい。
- ・性について悩んでいる子どもたちの中には何を悩んでいるか自分でもわからない人がいることがわかりました。子どもたちと関わる際には、いつでも話を聞けるというサインを出していき、話を聞く際には決めつけをせず、まずは話をしっかり聞こうと思いました。話を聞いたあとにその子はどうしていきたいのか聞いたり、わからなければ一緒に考えたりしていこうと思います。
- ・見えづらからこそ、いないものとして考えてしまう、という言葉が心にぐさりとささりました。自分たちができることを最大限に考えていきたいと思います。
- ・改めて周囲の理解が必要だと感じました。一人ひとり大切な命なので、差別や偏見で苦しむことがない社会にしたいです。

Ⅳ 担当者からひとこと

思春期の頃までに性別違和を感じる当事者が多いという一方で、性の悩みについて誰にも相談ができない、ということが現状として挙げられます。見えづら部分、非常にデリケートな部分であるからこそ、私たち大人がより一層理解を深めていくことが大事で、子どもたちが自分らしく人生を歩むことができるよう、地域や社会をつくっていかねばならないと感じました。

時代の流れに応じて自分の知識もアップデートしていかなければならないと、本研修をとおして改めて実感することができました。引き続き皆様のお役に立てるような研修を企画して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。この度は本研修にご参加いただきありがとうございました。